

第4回 常総環境センター最終処分場検討会資料

(平成24年3月15日)

常総地方広域市町村圏事務組合

目 次

(1) ごみの減量化・資源化の施策について	1
(2) 同規模施設の処理状況比較について	11
(3) 排出物のリサイクル及び埋立量について	12

(1) ごみの減量化・資源化の施策について

当圏域では、ごみの減量化・資源化を推進するため、各種施策について検討、実施しています。

①分別区分とごみの出し方

これまで5種13分別体制で実施していた分別区分は、平成24年度より分別区分を5種16分別に変更し、さらにごみの減量化・資源化を図っている。

[実施状況]

当圏域の分別区分は、これまで段階的に体制を変更し、ごみの中から新たに資源物となる品目を抽出してきましたが、平成24年度からは、さらに細分化しており、ごみの減量化と資源化をさらに進めます。

(分別方法の経過)

平成6年度	5種9分別	可燃、不燃、粗大、有害、資源物(あき缶、あきビン、新聞紙、雑誌・コピー紙、ダンボール紙)
平成12年度	5種13分別	可燃、不燃、粗大、有害、資源物(あき缶、 <u>無色ビン</u> 、 <u>茶色ビン</u> 、 <u>その他色ビン</u> 、新聞紙、雑誌・コピー紙、 <u>紙パック</u> 、 <u>ダンボール紙</u> 、 <u>古布</u>)
平成24年度	5種16分別	可燃、不燃、粗大、有害(乾電池・体温計、 <u>蛍光管</u>)資源物(あき缶、無色ビン、茶色ビン、 <u>その他色ビン</u> 、 <u>プラスチック製容器包装</u> 、 <u>ペットボトル</u> 、新聞紙、雑誌・雑紙、紙パック、ダンボール紙、古布)

※下線は追加分を表す。

平成24年度からの分別区分の変更にあたっては、住民周知が重要不可欠であり、今回「ごみの分け方出し方DVD」や「分別の手引き」を作成し、多くの方々に広く周知して分別排出の徹底を図る。

「ごみの分け方出し方DVD」では、映像による新しい分別の仕方を分かりやすく説明したもので、各市の住民説明会で活用しています。また、「分別の手引き」では、品目別のごみ種について網羅したもので、既に住民に配布し案内している状況です。さらに、新しい分別の仕方について、各市及び組合のホームページに掲載して案内しています。

【参考】

5種16分別導入のPRの状況(実績・予定)			120223現在
	広報等	住民説明会(DVDの活用)	備考
常総市	11月 2月 ※2/16、分別の手引き配布 3月 ※3/1個別にチラシ配布	2月広報で「出前講座」として周知した。 一希望を受け実施中 2/3 外国人団体(市民協働課窓口)、2/12 坂手地区(午前・午後)※市長同席 2/26 豊岡細野中地区 追加 3/4(豊岡浜・砂原、小谷地区)、3/11(菅生中郷地区) 4月以降も、要望があれば、各公民館等に向いて講座を開催する。 市役所ロビーでの案内(放映は不可、テロップ+音声で代用)で周知	ペットボトルは、水海道市内の一部で職員がモデル的に分別実施中。 ホームページ掲載中
取手市	1089号 H23. 11.15 1090号 H23. 12.1 1091号 H23. 12.15 ※2/29から順次、ポスティングで分別の手引き配布済	H23. 12.12～12.20にかけ説明会を実施した。 公民館単位で説明会を開催。 延べ8日間 14箇所 参加者約400名 出前講座は、2/11小堀地区から順次実施。(6箇所) 4月以降も対応していく。 市役所ロビーでの放映は可だが、詳細は検討中	ホームページ掲載中
守谷市	H23 10月25日おしらせ版 H23 12月10日版 ※2/10分別の手引きを配布済 カレンダー、Q&A含む	H23年10月 区長・廃棄物減量推進員を対象とした説明会をまず市役所で実施した。 延べ2日間、全6回開催、約200名 すでに要望があり、H24. 1月:2回、2月:1回、3月:3回個別に開催する。 今後、要望に応じて個別に説明会開催していく。 市役所ロビーでの放映は節電により困難だが、再検討する	ホームページ掲載中
つくばみらい市	H23. 12月 ※H24. 1月 ※2月下旬、分別の手引きを配布	H24. 1.19「お知らせ版」を配布し説明会の開催について周知する。 以降、行政協力員等からの要望があれば、個別に説明会を開催する。 2月以降も引き続き、広報で流していき、要望があれば説明会を開催していく。 2/26 板橋(門前)地区 3/4松並地区 3/11山王新田八期住宅 その他、センチュリーマンションでの予定有り 市役所ロビーでの放映は節電により困難	ホームページ掲載中
組合	第45号 H22. 11. 29 第46号 H23. 5.22 第47号 H24. 1.15		ホームページ掲載中
その他)各市と組合のホームページでの連携(リンク)のため、更新予定			

②補助制度強化、拡大

集団回収、生ごみ処理容器に対する補助の継続・強化する。

〔実施状況〕

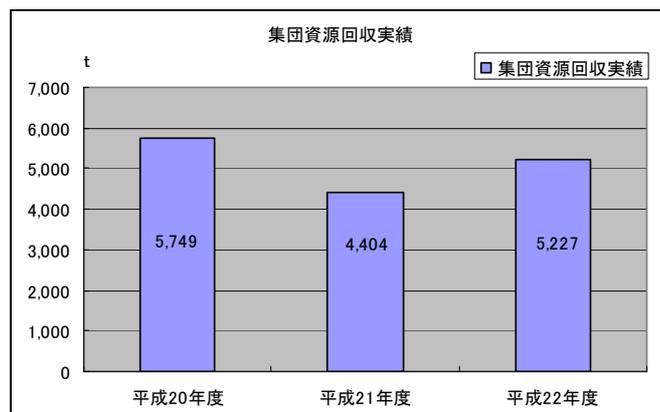
ごみ減量、資源化を推進するため、新聞紙、ダンボール紙等の集団資源回収を実施しています。平成21年度実績が4,404t、平成22年度は5,227tの資源物が回収され、毎年増減はある状況です。

また、生ごみ処理機の購入に関しては、平成21年度実績が259基、世帯比率0.4%でありましたが、平成22年度実績は201基、世帯比率0.2%で年々減少傾向の状況です。一方、組合では平成20年度から生ごみ堆肥化事業を順次実施しており、平成21年度協力世帯が4,801世帯、世帯比率5.2%に対し、平成22年度は5,935世帯で1,134世帯、世帯比率6.3%で0.9%の増となっていることから、生ごみ処理機の購入は少なくなってきました。

集団資源回収実績

(単位:t)

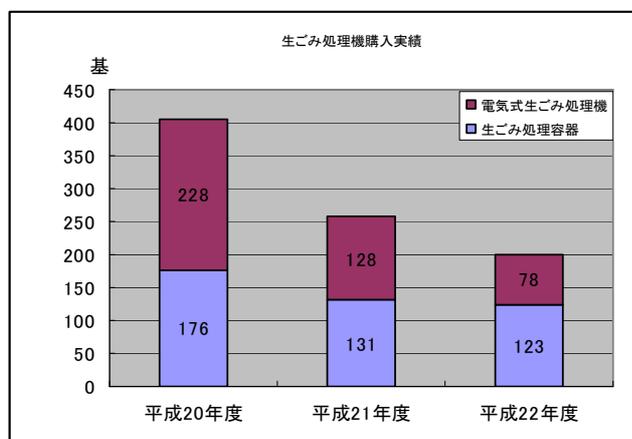
	平成20年度	平成21年度	平成22年度
常総市	1,103	1,016	1,846
取手市	3,045	1,807	1,794
守谷市	1,104	1,041	1,066
つくばみらい市	497	540	521
合計	5,749	4,404	5,227



生ごみ処理機購入実績

(単位:基)

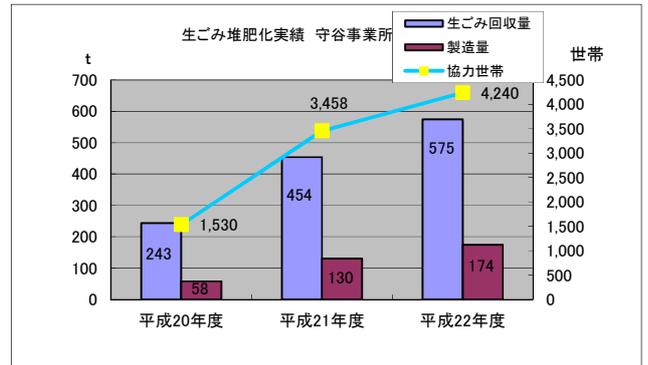
		平成20年度	平成21年度	平成22年度
生ごみ処理容器	常総市	49	49	42
	取手市	83	51	56
	守谷市	31	16	10
	つくばみらい市	13	15	15
	計	176	131	123
電気式生ごみ処理機	常総市	19	14	14
	取手市	136	55	33
	守谷市	47	39	14
	つくばみらい市	26	20	17
	計	228	128	78
合計	404	259	201	



生ごみ堆肥化実績 守谷事業所

(単位:t)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
生ごみ回収量	243	454	575
製造量	58	130	174
協力世帯	1,530	3,458	4,240

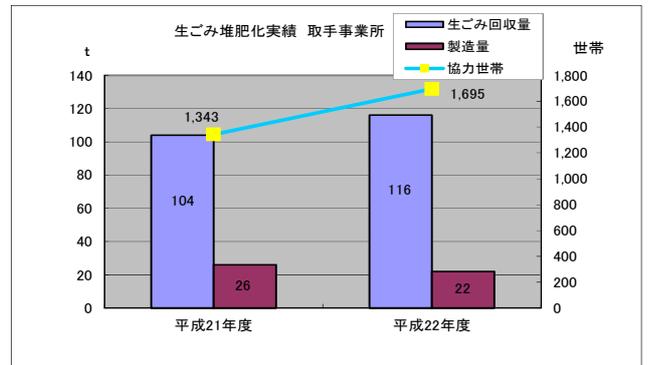


生ごみ処理実績 取手事業所

(単位:t)

	平成21年度	平成22年度
生ごみ回収量	104	116
製造量	26	22
協力世帯	1,343	1,695

平成21年度より取手市から移管



③環境学習の推進

学校、地域、事業所に対し、施設見学等の環境学習や情報提供等を行う。

〔実施状況〕

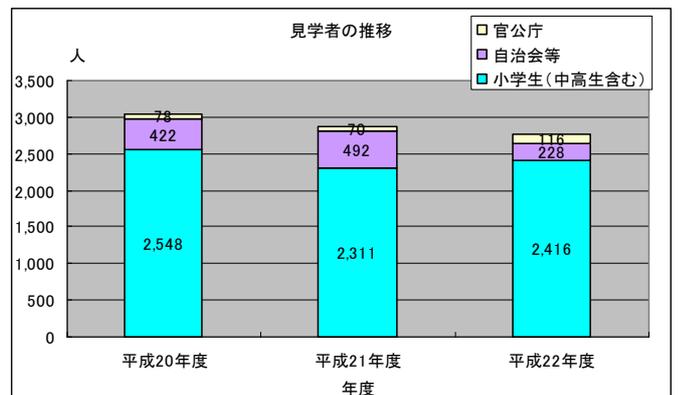
現在まで年間約 2,500 人以上の見学来場者があります。過去 3 カ年では、社会授業の一環で行われる小学生の来場者は横ばいがありますが、分別方法の変更や新施設稼働を控えていることから自治会等の来場者が減少している状況です。

しかし、新施設では、見学者の増加が予想されることから、引き続きごみの減量・資源化の推進についての意識の向上を図っております。

見学者の推移

(単位:人)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
小学生(中高生含む)	2,548	2,311	2,416
自治会等	422	492	228
官公庁	78	70	116
合計	3,048	2,873	2,760



④廃棄物減量等推進審議会等の開催

ごみ減量・リサイクル推進のため、引き続き開催する。

〔実施状況〕

取手市と守谷市で年2回程度実施しており、分別の指導や啓発等を実施しています。

環境審議会の主な活動内容(取手市)

1	一般廃棄物処理計画の協議
2	リサイクルの推進及び廃棄物の適正処理に関すること
3	環境行政の基本的なあり方に関すること 新ごみ分別区分に関することや粗大ごみ収集運搬手数料の改定について

廃棄物減量推進員の主な活動内容(守谷市)

1	各集積所の当番等を通じての集積所へのごみの適正な出し方、分別等の指導及び啓発を行う。
2	集団回収実施に向けての推進
3	市との連絡調整(不法投棄等通報制度)
4	ごみ減量の推進 ごみを出さない、リサイクルを促進するといった観点に立って地域内でできる自主活動を推進し、ごみ減量を図る。

⑤分別の徹底、不法投棄対策

廃棄物減量等推進員による分別指導、パトロール等の不法投棄防止策の検討、実施。
学校、町内等による清掃活動

〔実施状況〕

分別の徹底を図るため、各市の集積所において分別指導を実施しました。また、合わせて各市と共に集積所に出されたごみの分別状況の調査などを実施し、分別の徹底について広報などで周知しているところです。

また、各市では、廃棄物減量等推進員や協力企業などに不法投棄の状況確認をお願いするなどの対策を実施しています。さらに、市内一斉清掃や河川敷のクリーン作戦などで清掃活動を実施しています。

今後も、平成24年度からのごみ分別区分の変更による分別の徹底を図るため、分別指導やパトロールを実施します。

⑥粗大ごみの有料化

ごみ減量化推進のため、粗大ごみの有料化を平成 24 年度から実施する。

〔実施状況〕

ごみ減量を推進するため、平成 21 年にごみの有料化を検討した結果、「粗大ごみ」のみ実施することになりました。「粗大ごみ」は全ての住民から定期的に排出されるものではなく、受益者負担という観点等によるものです。粗大ごみの有料化については、既に先行して構成市の取手市が平成 14 年度に実施しており、実施前と比較して減少したことから平成 24 年度から粗大ごみの有料化を始めることにより、当初計画 3,559 トンに対し 3,200 トン程度に減少するもの考えられます。

⑦不用品の再利用の場の提供

施設の啓発棟を情報発信基地としてフリーマーケット、バザーの開催、不用品交換制度を実施する。

〔実施状況〕

・フリーマーケット、バザーの開催

当組合では、地元との交流を図りながら地域住民にごみ処理事業の現状を知ってもらうことを目的として「暮らしとごみを考えよう」をテーマに地元住民、構成市住民代表、構成市及び組合で常総環境センターふれあいデー実行委員会を立ち上げ、フリーマーケット等のイベントを開催しています。新施設稼働により、新たなイベントの開催を検討しております。

常総環境センターふれあいデーの状況

年月	会場	参集者
平成19年11月	常総環境センター 常総運動公園 老人福祉センター「白寿荘」	約3,000人
平成20年11月	常総環境センター 歩行者専用道路 老人福祉センター「白寿荘」	約1,900人

・守谷市の不用品交換制度の実施

守谷市では、既に市独自で不用品交換制度を実施しており、リサイクル伝言板を市役所に設けて住民同士で不用品の交換をしています。

リサイクル伝言板利用状況

[単位:件]

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
あげます	75	28	48
ください	41	22	46
計	116	50	94
成立	34	9	35

⑧施設の有効利用

啓発棟において、工房機能や情報発信機能等を備え、環境教育を推進していく。

[実施状況]

新施設の啓発棟にコンロを備えた住民の活動室を設け、エコクッキング教室等の開催、石けん作りや包丁とぎなど、住民主体の事業を実施し、住民が楽しみながら環境や資源の大切さを学んでいけるような事業を計画しています。

啓発棟における主な事業(案)

項目	内容	場所	期日
学習機能	施設見学 小学生等を対象にごみ処理の流れを説明し、ごみ減量に関心を持たせる。	見学通路 大会議室	随時
工房機能	紙すき体験 回収された牛乳パックなどを用い、紙すきを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室	夏休み期間
	石けん作り体験 廃食用油を用い、石けん作りを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室	夏休み期間
	飛行リング体験 回収されたペットボトルを用い、飛行リング作りを行う。団体に対し、場所を提供する。	啓発活動室	夏休み期間
	エコクッキング教室 各種住民団体等からの要請があった際、場所を提供する。	啓発活動室	随時
	包丁とぎ実演 各種住民団体等からの要請があった際、場所を提供する。	啓発活動室	随時
情報発信機能	研修等 環境に関する住民団体等による会議や講演会等に活用してもらう。	大会議室 啓発活動室	随時
	不用品のリサイクルの情報発信 各市が保管する不用品(家具、自転車、おもちゃなど)を案内する。	展示ホール	随時

⑨スラグ等再生ルールの確保

新施設の排出物であるスラグ等の用途について検討し、有効利用を図る。

〔実施状況〕

溶融処理された後に発生するスラグを売却している団体では、購入者は、アスファルト骨材または道路路盤材に加工するなどして再利用されています。

また、一部重金属の溶出基準を満たさなかったものや需要不足から部分的には埋立てされています。

(p-11 (2) 同規模施設の処理状況比較参照)

溶融処理を行うことで排出物がスラグである全国における団体や県内団体における実例を参考にしながら、再利用先のヒアリングを実施し、適切なリサイクル方法を検討しています。

なお、先進地におけるリサイクルの主な内容は以下のとおりです。

項目	A社	B社
原料中のスラグの割合	10%	10%
製品	路盤材	再生アスファルト(舗装材)
受入条件	構成市での使用	構成市での使用
仕入れ先	A団体 B団体	A団体

【減量化・資源化施策の効果】

これらの減量化施策の検討・実施により、p-10 のとおり、これまで当地域のごみの排出量は年間約 72,000 トンで推移しており、人口の増加があるにもかかわらず、その原単位は 700 g 台で減少傾向であります。

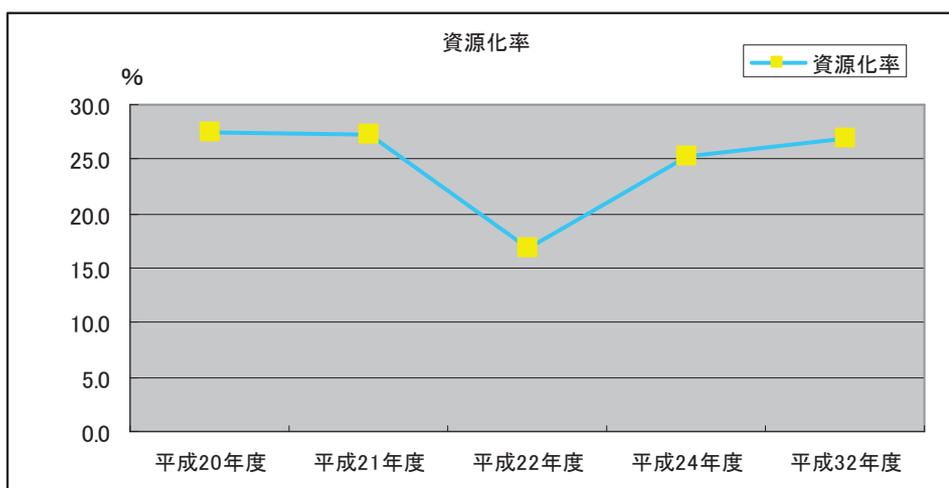
また、資源化率については、下記のとおり、平成 20 年度以降 20 % 台後半でありましたが、平成 22 年度にこれまで行われてきた廃プラスチック類固形燃料化施設が廃止し、減少しましたが、今後、新施設の稼働により、新たな排出物となるスラグ等のリサイクルを行うことで、再び資源化率を高めるものです。

今後も、引き続き、施策の検討を行いながら、減量化・資源化を推進し、平成 32 年度の最終目標を目指しております。

資源化率

(単位:%)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成32年度
資源化率	27.5	27.3	16.8	25.2	26.9



〔排出量の推移・予測目標の見直し〕

将来人口について最新計画による見直した結果、以下のとおりとなりました。

〔計画人口〕

市名	実績			計画		基準
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成32年度	
常総市	40,047	41,019	40,810	42,177	42,069	
取手市	109,555	109,414	109,283	119,189	117,116	
守谷市	59,908	61,664	62,806	62,100	69,200	
つくばみらい市	43,029	44,025	44,765	47,985	53,499	
組合	252,539	256,122	257,664	271,451	281,884	

※計画は、平成18年3月策定ごみ処理基本計画より抜粋

〔排出量の推移〕

組合全体	人口(人)	実績				予測目標	
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成32年度	
排出量 (t/年)	家庭系ごみ	61,559	61,044	60,747	66,745	66,843	
	事業系ごみ	11,295	10,515	10,613	10,316	10,007	
計	72,854	71,559	71,360	77,061	76,850		
原単位 (g/人・日)	家庭系ごみ	667.8	653.0	645.9	673.7	649.7	
	事業系ごみ	122.5	112.5	112.8	104.1	97.3	
計	790.3	765.5	758.7	777.8	747.0		
処理量	焼却量	56,746	56,207	54,518	68,432	71,799	
	廃プラ	11,611	11,479	12,204	0	0	
	合計	68,357	67,686	66,722	68,432	71,799	

※平成24年度・32年度は、ごみ処理基本計画より抜粋

〔見直し後人口〕

市名	実績			計画		基準
	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成32年度	
常総市	40,047	41,019	40,810	41,401	40,258	コーポート推計値 (水海道地区按分)
取手市	109,555	109,414	109,283	108,938	103,862	公共施設マネジメント白書
守谷市	59,908	61,664	62,806	63,355	70,083	人口推計
つくばみらい市	43,029	44,025	44,765	46,326	47,722	つくばみらい市総合計画より推計
組合	252,539	256,122	257,664	260,020	261,925	

〔見直し後の排出量の推移〕

組合全体	人口(人)	実績				予測目標	
		平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成24年度	平成32年度	
排出量 (t/年)	家庭系ごみ	61,559	61,044	60,747	62,585	61,889	
	事業系ごみ	11,295	10,515	10,613	9,684	9,423	
計	72,854	71,559	71,360	72,269	71,312		
原単位 (g/人・日)	家庭系ごみ	667.8	653.0	645.9	661.6	647.4	
	事業系ごみ	122.5	112.5	112.8	102.3	98.6	
計	790.3	765.5	758.7	763.9	746.0		
処理量	焼却量	56,746	56,207	54,518	65,518	61,977	
	廃プラ	11,611	11,479	12,204	0	0	
	合計	68,357	67,686	66,722	65,518	61,977	

※平成24年度の排出量と処理量についてはごみ処理計画書より抜粋し、家庭系ごみと事業系ごみの割合については、平成18年3月策定ごみ処理基本計画より推分した。

※平成32年度についてはごみ処理基本計画より人口を見直した結果による

(2) 同規模施設の処理状況比較

同規模及び同処理量の施設は以下のとおりです。

〔同規模団体〕

施設名	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化				埋立				最終処分場容量 (m ³)
			(t)	(処理量に対する割合)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	残渣 (t)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	不適物 (t)	不適物 (t)		
A団体	42,830	45,000	5,398	12.0%	1,800 (150円/t) アスファルト骨材として使用	—	—	—	1,732 (処分場所有)	1,866 (処分場所有)	—	125,000	
B団体	58,547	60,073	4,156	6.9%	1,959 (100円/t) 路盤材等を使用	—	—	—	612	—	—	—	
C団体	40,457	41,400	3,720	9.0%	2,919 (100円/t) 路盤材等を使用	—	—	—	801 (処分場所有)	—	—	25,000	
D団体	50,233	48,736	5,711	11.7%	4,313 (1円/t) 公共工事を使用	—	—	—	1,354 (処分場所有)	44 (処分場所有)	—	1,300,000	

※平成22年度実績

※聞き取り調査による

〔ガス化溶融方式採用団体(同焼却量)〕

施設名	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化				埋立				最終処分場容量 (m ³)
			(t)	(処理量に対する割合)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	残渣 (t)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	不適物 (t)	不適物 (t)		
E団体	54,068	61,243	6,246	10.2%	1,809 覆土材 最終処分場 (305,800 m ³)	1,879 (山元還元)	51 (山元還元)	422 (処分場所有)	11 (処分場所有)	2,074 (処分場所有)	—	472,200	
F団体	71,294	75,662	10,868	14.4%	7,570 (150円/t)	—	—	—	3,298	—	—	—	

※平成22年度実績

※聞き取り調査による

〔参考1〕

施設名	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		資源化				埋立				最終処分場容量 (m ³)
			(t)	(処理量に対する割合)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	残渣 (t)	スラッグ (t)	飛灰 (t)	不適物 (t)	不適物 (t)		
G団体	28,380	28,525	2,578	9.0%	1,256 (200円/t) 管巻材、埋戻材	—	—	—	1,063 (構成市処分場)	99 (構成市処分場)	—	—	
H団体	36,764	37,060	3,893	10.5%	1,858 (10.5円/t) 路盤材等を使用	—	129 (2.1円/kg) 金属を抽出	—	1,906	—	—	—	
I団体	32,225	33,454	2,719	8.1%	1,339 (55円/t) 路盤材等を使用	—	—	—	1,175	205	—	—	

※平成22年度実績

※聞き取り調査による

(参考2)

施設名	規模	可燃ごみ搬入量 (t)	焼却量 (t)	総排出量		スラッグ (t)	飛灰 (t)	残渣 (t)
				(t)	(処理量に対する割合)			
常総環境センター	258t/日	53,000	65,518	10,990	16.8%	6,400	4,130	460

※平成24年度ごみ処理計画書による

(3) 排出物のリサイクル及び埋立量について

常総環境センターからの排出物のリサイクル量及び埋立量について試算すると次のとおりです。

最低費用負担

排出物	(単位:千円)	
	最低費用負担方法	費用負担
スラグ	売却(100%)	△ 640千円
溶融飛灰	埋立(100%)	130,095千円
不燃残渣	埋立(100%)	14,490千円
合計		143,945千円

スラグのリサイクル及び埋立処分したケースの費用負担

排出物の種別	総排出量 (t/年)	リサイクル(100円/t)		埋立処分(31,500円/t)		費用負担
		100%	埋立処分(100円/t)	0%	埋立処分(31,500円/t)	
スラグ	6,400	6,400t	640千円	0t	0円	△ 640千円
		60%		40%		
		3,840t	384千円	2,560t	80,640千円	80,256千円
		50%		50%		
		3,200t	320千円	3,200t	100,800千円	100,480千円
		40%		60%		
		2,560t	256千円	3,840t	120,960千円	120,704千円
		30%		70%		
		1,920t	192千円	4,480t	141,120千円	140,928千円
		0%		100%		
	0t	0円	6,400t	201,600千円	201,600千円	

※1 リサイクル単価については、売却単価(100円/t)とした。

※2 埋立処分単価については、組合契約単価(31,500円/t)とした。

溶融飛灰のリサイクル及び埋立処分したケースの費用負担

排出物の種別	総排出量 (t/年)	リサイクル(逆有償) (79,900円/t)		埋立処分(31,500円/t)		費用負担
		100%	埋立処分(逆有償) (79,900円/t)	0%	埋立処分(31,500円/t)	
溶融飛灰	4,130	4,130t	329,987千円	0t	0円	329,987千円
		60%		40%		
		2,478t	197,992千円	1,652t	52,038千円	250,030千円
		50%		50%		
		2,065t	164,994千円	2,065t	65,048千円	230,041千円
		40%		60%		
		1,652t	131,995千円	2,478t	78,057千円	210,052千円
		30%		70%		
		1,239t	98,996千円	2,891t	91,067千円	190,063千円
		0%		100%		
	0t	0円	4,130t	130,095千円	130,095千円	

※1 リサイクル単価については、逆有償単価(79,900円/t)とした。

※2 埋立処分単価については、組合契約単価(31,500円/t)とした。

不燃残渣のリサイクル及び埋立処分したケースの費用負担

排出物の種別	総排出量 (t/年)	リサイクル(逆有償) (53,500円/t)		埋立処分(31,500円/t)		費用負担
		100%	埋立処分(逆有償) (53,500円/t)	0%	埋立処分(31,500円/t)	
不燃残渣	460	460t	24,610千円	0t	0円	24,610千円
		60%		40%		
		276t	14,766千円	184t	5,796千円	20,562千円
		50%		50%		
		230t	12,305千円	230t	7,245千円	19,550千円
		40%		60%		
		184t	9,844千円	276t	8,694千円	18,538千円
		30%		70%		
		138t	7,383千円	322t	10,143千円	17,526千円
		0%		100%		
	0t	0円	460t	14,490千円	14,490千円	

※1 リサイクル単価については、逆有償単価(53,500円/t)とした。

※2 埋立処分単価については、組合契約単価(31,500円/t)とした。

(参考)

他団体における排出物のリサイクル量及び埋立量

【単位:t】

施設名	可燃ごみ 搬入量	焼却量	総排出量	資源化				埋立					
				スラグ		飛灰		スラグ		飛灰		不適物	
				スラグ	飛灰	残渣	スラグ	飛灰	不適物	スラグ	飛灰	不適物	
A団体	42,830	45,000	5,398	1,800 全量	—	—	—	1,732 処分場所有	1,866 処分場所有	—	—		
B団体	58,547	60,073	4,156	1,959 需要次第	—	—	1,585 需要残	612	—	—	—		
C団体	40,457	41,400	3,720	2,919 全量	—	—	—	801 処分場所有	—	—	—		
D団体	50,233	48,736	5,711	4,313 全量	—	—	—	1,354 処分場所有	44 処分場所有	—	—		
E団体	54,068	61,243	6,246	1,809 全量	1,879 全量	51 全量	422 全量	11 処分場所有	2,074 処分場所有	—	—		
F団体	71,294	75,662	10,868	7,570 全量	—	—	—	3,298 全量	—	—	—		
G団体	28,380	28,525	2,578	1,256 良品	—	—	160 不良品	1,063 構成市処分場	99 構成市処分場	—	—		
H団体	36,764	37,060	3,893	1,858 全量	—	129 全量	—	1,906 全量	—	—	—		
I団体	32,225	33,454	2,719	1,339 全量	—	—	—	1,175 全量	205 全量	—	—		